

1 総合評価の結果

建物名称	(仮称)相模大野2丁目計画		
BEE	1.5	BEEランク	A
★★★★☆			

2 重点項目への取組み度

重点項目	評価	劣る	ふつう	よい	
地球温暖化への配慮	地球温暖化の主因である二酸化炭素の排出量削減対策に関する項目	スコア 4.7	★★★★☆		
ヒートアイランド現象の緩和	ヒートアイランド現象(都市部の気温が周辺部よりも高くなる現象)を緩和する対策に関する項目	スコア 3.0	★★★☆☆		

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

LR3/1 地球温暖化への配慮	レベル	説明	
 LR2/2.1 材料使用量の削減	4.7	LCCO2(ライフサイクルCO2) 建設してから解体するまでの建築物の一生(これをライフサイクルと呼ぶ)で使った資材・エネルギーを、地球温暖化の影響を計るためにCO2排出の量に換算し、これら全てを足し合わせたもの	
建設	LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用	3	構造躯体用部材の生産・加工段階における廃棄物削減の取組みを評価
	LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3	既存の建築躯体の継続利用有無および範囲による評価
	LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3	躯体材料へのリサイクル材利用を評価
運用	Q1/2.1.3 外皮性能	3	窓まわり、外壁、屋根や床(特にビロティ)における室内への熱の侵入に対しての配慮の程度および庇やブラインド等を設けることによる日射遮蔽の程度を評価
	LR1/1 建物の熱負荷抑制	3	室内における「夏の暑さ」と「冬の寒さ」を防ぐための建物の基本性能として、断熱・気密機能を評価
	LR1/2 自然エネルギー利用	3	自然エネルギーの直接利用(採光利用、通風利用、地熱利用など)、変換利用(太陽光、太陽熱など)の導入有無、導入割合を評価
	LR1/3 設備システムの高効率化	4.8	空調・換気・照明・給湯・昇降機によるエネルギー消費量の削減対策を評価
LR1/4 効率の運用	-	エネルギーの管理と制御によるエネルギー消費量の削減対策を評価	
修繕更新解体	Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数	5	構造躯体などに使用する材料の交換等大規模な改修工事を必要とするまでの期間を伸張させるための対策の程度を評価
ヒートアイランド現象の緩和		レベル	説明
Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	4	熱的な悪影響を低減する対策(敷地内へ風を導く、緑地や水面を確保する、建築設備による排気や排熱の位置等に配慮するなどの対策により暑熱環境を緩和する)を評価	
LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	2	温熱環境の事前調査、敷地外への熱的な影響を低減する対策、温熱環境悪化改善の効果の確認に関する取組み度合い	
関連項目		レベル	説明
LR2/1.1 節水	4	節水への取組み度合いを評価	
Q3/1 生物環境の保全と創出	2	生物環境の保全と創出に関する配慮(立地特性の把握と計画方針の設定、生物資源の保全、緑の量・質の確保、生物環境の管理と利用など)を評価	

主な指標および効果

指標	スコア	自由記述
LCCO ₂ の削減率	22%	・住戸部分は全開口部、遮音性能のT-2のサッシを採用。 ・階高の計画1階:12~15階:3.01m/2~11階:2.96m。(2重天井にて計画) ・天井高さのゆとりと内装改修が容易な計画となっている。 ・自主管理広場、歩道状空地、緑化等の計画。 ・日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級3取得。 ・潜熱回収型給湯器の採用。 ・節水コマ及び省水型機器の採用。ハロン消化剤を使用しない。 ・適切な照度設定、省エネ型機器の採用を行い、照明エネルギー消費係数(CEC/L)0.92とする。 ・潜熱回収型給湯器の採用給湯用に利用している。 ・節水器具を採用し、水資源の保護を図っている。 ・【使用管材・耐用年数】給水/水道用硬質塩化ビニル管(B) 給湯/保温付架橋ポリエチレン管(B) 汚水排水/排水用硬質塩化ビニル管(C年) 雑排水/排水用硬質塩化ビニル管(C) 通気/硬質塩化ビニル管(A) ・ライフサイクルCO ₂ 排出率:参照地に対して78%(標準計算による自動算出)
PAL値/省エネ対策等級(1~4) (工場用途は評価対象外)	3 / - (集合住宅)	
ERR(設備システムの高効率化)	%	
自然エネルギーの利用		
太陽光利用(太陽光パネルなど)	MJ/年	
エネルギー削減率	%	
太陽熱利用(太陽熱利用給湯システムなど)	MJ/年	
エネルギー削減率	%	
その他高効率機器等 (有の場合は内容を自由記述欄へ記載)	有	

□ : 入力欄

□ : CASBEE - 新築(簡易版)の採点結果から転記してください。